

■福祉心理学科カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

- 多文化共生社会における総合的な人間理解力
 - 人の心には、人々に共通する心の特徴(一般の原理や法則)と、人それぞれの心の特徴(個人差や多様性)があることを理解できる
 - 人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わること理解できる
 - 生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる
- 根拠に基づく情報発信力
 - 心理学の方法(文献検討、観察、実験、調査、面接等)を用いて、客観的なデータを集めることができる
 - 心理学の方法で得たデータを、図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる
- 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力
 - 多様な生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題に気づくことができる
 - さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、多様な他者の気持ちや意見を考慮し、予防策や解決策を見出すことができる
- 多様な人々への共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力
 - 他者の気持ちや意見を共感的に理解し、対話のなかで理解を深めることができる
 - 他者の気持ちや意見を尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる
- 自己理解に基づくセルフコントロール力
 - 自分の気持ち、考え、行動とそれらの特徴に気づくことができる
 - 怒りや不安等の自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる
 - 自分の成長につながる目標を立て、やる気(モチベーション)を高めることができる
- 集団理解に基づく対人調整力
 - 集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる
 - 集団で情報を共有し、メンバーのやる気(モチベーション)に気を配り、自由に意見を出してもらおうことができる
 - メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる
- 多文化共生社会における心理学の学びを活かした社会貢献力
 - 積み重ねてきた学びを統合して、多文化の人びとの幸せや福祉に貢献することができる
 - 個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる

科目カテゴリ	授業科目	担当者	授業内容	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
基盤教育科目	こころの科学	高木源	この講義では、生体の行動を観察することによって心のはたらきを研究することの意義を学び、心理学が私たち人間の理解にどのような貢献をしているかについて学ぶ。また、特定分野だけでなく、基礎から応用まで幅広く紹介することを目的とする。本講では、講義形式をとるが、簡単な心理学に関する実験やデモを取り入れることで、講義内容の理解を深めることを目指す。	①心理学の基本的な問いを理解し、代表的な領域の知見を説明できる。 ②心理学的な実験結果を図表をもとに読み解くことができる。 ③様々な心理学の知見を日常生活の問題に結び付けて論述できる。	◎			△		○		
	こころの科学	山口奈緒美	学問としての心理学に初めて触れる学生を対象に、心のはたらきについて心理学が明らかにしてきたことを広く紹介します。全15回の授業を通して、知覚、記憶、感情、学習、動機づけ、人格、発達、社会、臨床心理学を概観し、それぞれの領域が示してきた人間像を紹介し、人間理解に対するひとつの見方を提示します。	1) 様々な心理学実験の結果を理解し、人々の心の働きに関連付けて説明することができる。 2) 日常の生活における自己や他者の行動の背後にある心理プロセスを論述することができる。	◎				◎			
	こころの科学	中川裕美	はじめて心理学を学ぶ人のために、日常的なテーマについて心理学が何をどこまで明らかにしているのかを説明する。その後、そうした知見の基盤となる基礎的な研究を取り上げる。こころを科学するには、社会的環境、個人差、発達段階などが人にもたらすような影響を与えるか、様々な視点から複合的に考察する必要がある。本講義では、心理学の各分野(福祉心理、社会心理など)で主要な研究を学ぶことで、自らが科学的な視点を持ち、適応的な社会生活を送れるよう問題解決能力を向上させることを目指す。	1 心理学における科学的な研究手法を説明できる 2 様々な心理学領域の基礎知識を身につけ、それらがどのような場面で応用できるかを提案できる 3 現実場面で生じる問題への対処方法を考察することができる	◎			○		△		
	統計情報を見る目	柴田理瑛	本講義では、統計学的なものの考え方やその初歩的な手法について解説を行っていきます。その際、受講生の皆さんにとって、その内容が様々な情報を論理的に整理し、理解し、新たな事実を発見する際の有効な手段となるよう、身近な事例を取り上げながら講義を行っていきます。	1. 統計的思考法に基づいて身の回りにある統計情報を分析・説明することができる。 2. 平均の特徴と解釈の際の留意点について説明できる。 3. データの「ばらつき」を理解する必要性を説明することができる。 4. 相関関係の数値的要約の方法と解釈の際の留意点を説明できる。 5. 統計法を用いたデータの一般化について説明することができる。			◎		○			△
	統計情報を見る目	高木源	本講義では、情報を統計学的に見る方法と基礎的な分析方法について解説を行っていきます。そのために、身近な問題への統計学的な理解の仕方を紹介し、データから新たな発見を見いだすことが理解できるように講義を行っていきます。	1. 統計的思考法に基づいて身の回りにある統計情報を分析・説明することができる。 2. 代表値の特徴と解釈の際の留意点について説明できる。 3. データの「ばらつき」を理解する必要性を説明することができる。 4. データ間の関連を検討する方法と解釈の際の留意点を説明できる。 5. 統計法を用いたデータの一般化について説明することができる。			◎		○			△
専門基礎科目	心理学実験	大関信隆、佐藤俊人、重宗弥生、柴田理瑛、中川裕美、中村修、半澤利一、山口奈緒美、吉田綾乃	全体を2つのグループに分けて集団で実験を行う。1つの実験課題を2週間かけて実施・分析し、全6種の実験課題を経験する。その全てについてレポートを作成する。 第1・2回目の授業では実験法に関する概論を、最終回の授業では全体の振り返りを行う。実験種目と主担当者は以下のとおりである。 系列学習(重宗弥生)、ミューラー・リヤー錯視(半澤利一)、印象形成(山口奈緒美)、認知的葛藤(大関信隆)、社会的影響(吉田綾乃)、色残効(柴田理瑛)	1)実験法自体の手法や、心理学方法論における実験法の位置づけを説明できる。 2)「独立変数」や「従属変数」などの意味や、「要因操作」や「条件統制」という行為の意義を説明できる。 3)基本的な心理学的実験を自ら計画し実施することができる。 4)実験から得られるデータを適切に収集、処理することができる。 5)実験結果を適切に解釈し、基本的な科学的レポートを作成することができる。	○	◎	◎	△			△	
	心理学研究法	吉田綾乃、重宗弥生、柴田理瑛、高木源、中村恵子、山口奈緒美、渡部純夫	心理学研究法は、心理学の方法論について総合的な理解を図るための講義と実習からなる授業である。観察法と調査法、データ分析実習を中心に、心理学的研究の具体的な方法について理解と習得を目指す。特に調査法では調査内容の決定からデータ収集そして分析までの一連の作業をグループワークを取り入れながら実施してもらい、受講生の積極的な取り組みを望む。	1. 観察法・調査法の内容や特徴を説明でき、心理学研究に応用できる。 2. 問題意識に基づいて仮説を立案することができる。 3. 質的データおよび量的データの分析ができる。 4. 研究成果を報告書にまとめることができる。 5. 心理学研究における倫理を守ることができる。 6. 積極的にグループワークに参加し、自他の考えを尊重しながら話し合うことができる。	○	◎	○	○			○	○

心理検査法実習	半澤利一、大関信隆、佐藤俊人、柴田理瑛、高木源、武村尊生、内藤裕子、中村修、三谷聖也、渡部純夫	心理検査法は、心理査定(アセスメント)の基本となる技法であり、心理学の臨床的応用である。この実習においては、まず具体的な方法についての理解を目指し、個人に対するデータの収集から分析までの一連の作業についてワークを取り入れて実施してもらう。同時に心理検査を実施する際の倫理的な配慮についても修得する。	面接法・発達検査・知能検査・投影法・質問紙法・作業検査法それぞれの内容や特徴を説明できる。 得られたデータの分析ができ、結果を報告書にまとめ、研究や個人差の理解に応用できる。 心理検査や研究における倫理を守ることができる。	◎	○	△	◎	○		△
心理学概論	中村修	知覚・感情・学習・記憶・思考・発達・社会・性格・臨床などの各領域における心理学の基礎知識を習得し、「人の心と行動」に関する理解を深める。また、これらの領域に共通する「心理学的な考え方」「科学としての心理学のアプローチ」の理解を目的とする。	心理学の成り立ちのついて概観できる。 人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。 心理学で用いられる基礎的用語(基本的概念)を理解した上で、その言葉の日常的用法との違いを説明できる。 講義にて紹介された心理学概念・理論に対して、具体的な行動例を指摘することができる。 心理学を構成する下位領域から、異なる領域の概念を用いて1つの行動を説明することができる。	◎		◎	△	○		△
心理学概論	吉田綾乃	心理学は、行動と心的過程についての科学的学問である。心理学は誰もが持つ「こころ」という身近なものを対象としているために、親しみやすい。しかしながら、同様の理由から科学的な研究を行うことが難しくもある。この講義では、まず始めに科学的な学問としての心理学が、何を問題としているのか、どのような理論的枠組みで、どのような方法論に基づいて研究を行っているのかを概説する。その上で、心理学の様々な領域について、入門的な知識から専門的な知識まで体系的に紹介する。	1.心理学の成り立ちのついて概観できる。 2.心理学の主要分野を概観し、それぞれの研究アプローチの相違について説明できる。 3.心理学で用いられる基礎知識、基本的概念を理解した上で、日常的用法との違いを説明できる。 4.ある特定の行動について、心理学を構成する諸領域の知識を用いて複数の観点から考察できる。	◎		○		○		
福祉心理学	渡部純夫	人々の幸せ追求と生活の質の向上に貢献できる福祉心理学の知識と援助方法を身に付けることで、心理実践力のうち、人間理解力について理解を深める。	・心理学の理論や実践を福祉の現場に入れ込む方法を説明できる。 ・心理学の理論と手法から、一人ひとりの心理面を考慮した心理的援助が、具体的な・実際のどう行われ、どのような効果をあげられたのか説明できる。	◎	○	○	◎	△	◎	◎
福祉心理学	中村恵子	福祉臨床を支える心理学の理論として、ソーシャルワークでの面接技法の土台となった心理学の理論を理解する 心理実践力のうち、主に、人間理解力、問題発見・解決力について理解を深める	①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する ③日常生活と心の健康との関係について理解する ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる	○		○	○			◎
福祉心理学	佐藤俊人	(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)								
発達心理学	中村修	生涯発達心理学は、生涯というスパンでの人の変化を理解しようという分野である。例えば、老人の心理を理解しようとする時には、それまでの期間をどのように生きてきたのかということ踏まえて「つながり、積み重ね」という視点で理解する必要がある。つまり、「発達とはどういうことか」について基本的な理解を図るためには、①(年齢区分でもあらわされる)ある発達段階の特徴とその「発達課題」を理解すること、②認知・感情・自己といった人間機能の諸側面ごとの発達過程における変化の様相を理解すること、が必要となっていく。	誕生から死に至るまで生涯における発達及び各発達段階での特徴について説明できる。 認知機能の発達及び感情・社会性の発達について概説できる。 自己と他者の関係の在り方と心理的発達について説明できる。 発達障害等非定型発達について基礎的な事項や考え方を概説できる。	◎		○	○	○	△	
発達心理学	佐藤俊人	人間は人生の最後の瞬間まで、自分がおかれた環境に適応しながら行動や考え方を変化させることができる。その意味では、生涯にわたり発達を続ける存在である。この講義では、主として人間関係に注目しながら乳児期から老年期までの発達の様相を概観する	人間は、周囲のさまざまな影響を受けながら生涯にわたって発達することを理解し、発達支援に応用することができる。	◎		◎		○		○
臨床心理学概論	渡部純夫	臨床心理学の基本概念を理解し、それに基づいたアセスメント・見立て及び心理療法について深く学ぶ。そして、人間研究がどのように行われているかその特質についても理解する。	1.臨床心理学の基本的考え方を理解し説明できる。 2.人間研究について、どのような視点や注意が必要かについて理解し説明ができる。 3.臨床心理学的視点からの対応における可能性と危険性について理解し説明ができる。	◎	◎	○	◎			
臨床心理学概論	秋田恭子	臨床心理学は人の行動や心を理解する学問である。対人援助職に将来就く人は特に援助する相手を理解し、共感することが求められる。臨床心理学の授業で得られた知識によって、まずは自分の心や行動と照らし合わせてより深く自分自身を理解して理論に基づき説明できるようになること、その上で人はどのように感じ、そして行動するのかということ理論に基づいて説明できるようになることを到達目標とする。	1.臨床心理学の基本的考え方を理解し、説明できる。2.人間の心の状態や行動をどのような方法でとらえてきたのかを理解し、説明できる。3.年代ごとの特徴および抱える問題を理解し、説明できる。4.悩む人に対してどのようなアプローチが可能かを説明できる。5.対人援助職の倫理的な問題について説明できる。	◎	○	◎	◎	○	○	○
社会・集団・家族心理学(社会・集団心理学)	吉田綾乃	なぜ第一印象が重要なのか？どうしてキャッチセールスに引掛かり不要なものを買ってしまうのか？グループ作業になると手を抜いてしまう人が増えるのはなぜか？私たちの社会的行動には不可解な現象が多い。これらの行動は多くの要因の複雑な影響を受けている。社会心理学は、様々なアイディアに基づいた精緻な実験や調査によって、その現実を取り出し、背後にあるメカニズムを明らかにしようとする学問である。この講義では、できるだけ多くの興味深い研究知見を取り上げながら、私たちの持つ心のメカニズムについて概説する。	1.対人関係ならびに集団における人の意識及び行動に関する心の過程について説明できる。 2.人の態度及び行動の変化についての理論や原理について説明できる。 3.集団および文化が個人に及ぼす影響について説明できる。	◎		○		○	△	△

応用認知心理学	柴田理瑛	この講義では、生体の行動を観察することによって心のはたらきを研究することの意義を学び、認知心理学が私たち人間の理解にどのような貢献をしているかについて学ぶ。また、特定の分野だけでなく、基礎から応用まで幅広く紹介することを目的とする。本講では、講義形式をとるが、簡単な認知心理学に関する実験やデモを取り入れることで、講義内容の理解を深めることを目指す。	1. 認知の基本的な仕組みについて理解する。 2. 実験結果を図表をもとに読み解くことができる。	◎		○		○				
乳幼児心理学	平川昌宏	(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)										
児童青年心理学	半澤利一	生涯発達心理学の中で、児童期と青年期における主要な精神機能の発達の姿と特徴、発達にかかわる要因やそのメカニズムを論じる。児童期・青年期で示される種々の行動や状態について一般的傾向を把握するばかりでなく、歴史的な意味づけの変遷なども取り上げ、環境との関わりの中で自己意識や精神機能がどのように変化し、安定した自己形成へと統合して行くのかをたどって行く。	1. 児童期と青年期の過程や発達課題が意味することを、具体的な行動と関連付けて論じることができる。 2. 得られた知識に基づいて、自分のこれまでの体験を意味づけて整理できる。	◎		○		◎	○			
老年心理学 I	加藤 伸司	(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)										
司法・犯罪心理学	半澤利一	犯罪・非行とは何か、どう理解して処遇して行くのかを、実務家の視点で理解する。併せて犯罪・非行の時代的推移や現代型非行の特徴、捜査や裁判、処遇を担う機関の機能や連携、被害者心理についての理解を深める。これらの学習が福祉や教育の現場にも応用できるよう、理論に関連した事例を引用して解き明かす。	1. 非行や犯罪という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。 2. 再犯を抑制して社会適応を促す処遇方法を判断し、更正に向けた心理的支援の基本的技法を実践できる。 3. 離婚や子をめぐる争いなどの家庭内紛争の構造を説明できる。	◎		○		○			◎	
産業・組織心理学	山口奈緒美	産業心理学とは、産業に関連する生活場面における人々の行動を、個人的・環境的諸条件との関連において研究する学問です。商品やサービスを提供する側の心理と、それらを消費する側の心理の双方から、今日の産業に携わる人々の心理を探ります。また、労働者が抱える問題の解決に向けて支援する心理的取り組みについても学びます。	1)組織成員の心理について、ワークモチベーション、キャリア発達、ジョブ・ストレスといった観点から説明できる 2)組織成員が抱えるワークモチベーション、キャリア形成、ジョブストレスに関する悩みに対する援助方法を組み立てることができる 3)企業組織における人々の心理について、意思決定や公正という観点から説明できる 4)消費者行動の背後にある心理プロセスについて説明することができる	◎						◎	◎	
心理的アセスメント I	清水めぐみ	臨床心理学の一領域を構成する心理的アセスメントの概要を、特に①目的と倫理、②観点と展開、③方法(観察、面接及び心理検査)それぞれの特徴と限界、④適切な記録及び報告、の4点を柱として理解することを目指す。心理的アセスメントにおいて重要な心理検査についての知識を得るにとどまらず、心理的アセスメントと臨床心理学的対人援助の関連を理解し、実践に生かすことのできる心理的アセスメントの視点を養う。	1. 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。 2. 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。 3. 心理的アセスメントの方法(種類、成り立ち、特徴及び限界)を記述できる。 4. 心理的アセスメントにおける適切な記録及び報告の趣旨を説明できる。	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
心理的アセスメント II	大関信隆	心理学的援助においては、対象者が示す行動を多面的に捉え、そこから関わりの方略を見出すことが必要となります。その一つの方法として、心理学では心理検査というツールを用います。本講義では、心理的アセスメントに用いられる各種手法について検査別に概説しその知識を深めます。また臨床場面で頻りに用いられる知能検査・発達検査について、その実施方法などを、実際に検査道具を用いながら習得します。	1)検査法を用いたアセスメントの流れについて説明できる。 2)「人格検査」「知能検査」それぞれの特徴について具体的に説明できる。 3)対象者に合わせた検査の選択を行う必要性について説明できる。 4)適切な検査報告書がどのようなものなのか説明できる。	◎	◎			◎				◎
公認心理師の職責	秋田恭子、日笠真理子、半澤利一	この授業は、公認心理師を目指す人のための導入的科目である。公認心理師が、国民から何を期待されている、それに真摯に答えていくためにはどうあるべきかを考えていく。はじめに、寄つて立つ所の法律を通して、公認心理師の役割や法的責務などを理解し、さまざまな分野で具体的にどのように活動しているかを学ぶ。これらの学びが、すべて、「国民の心の健康の保持増進に寄与する」ことにつながっていくことを理解する。	1.公認心理師法の内容を説明できる。 2.公認心理師の役割、責任、倫理、各分野での業務について説明できる。 3.守秘義務と要支援者の安全確保の関係など葛藤の状況を理解し考えることができる。 4.連携やチームアプローチについて説明できる。 5.公認心理師の資質向上の責務や生涯学習の意義について説明できる。	◎		◎	○					◎
神経・生理心理学	重宗弥生	神経心理学は、脳が損傷された場合に起こる知覚や行動の障害から、その障害された認知機能のメカニズムや対応する脳領域を明らかにする学問であり、神経生理学は、生理的な反応から知覚や認知の処理メカニズムを明らかにする学問です。本授業では、脳の生理学的・解剖学的な構造を理解した上で、スライドやビデオ映像による症例の紹介、心理検査の実施、コメントシートへの回答を通して、脳の損傷によって起こる障害や生理的反応について理解してもらいます。	①脳の生理学的・解剖学的な構造を理解し、その知識を活用できる(脳神経系の構造及び機能の理解) ②脳を基盤とする認知機能の機序を理解し、その知識を活用できる(記憶、感情等の生理学的反応の機序の理解) ③脳領域の損傷や疾患によってみられる障害を理解し、その知識を活用できる(高次脳機能障害の概要の理解)	◎		◎						○
障害者・障害児心理学	大関信隆	この授業では、身体障害や知的障害、精神障害などの障害を持ちながら生活している人々の心理・行動面に関する理解を深めることが目的です。それぞれの障害像はどのようなものなのか、それにより引き起こされる心理・行動的諸問題はなにか、どのような社会的課題があり、どのような支援が可能なのかについて、学びを深められればと思います。各種障害に対する基本的な考え方や一般的なメカニズム、状態像や心理社会的支援に関する内容などが含まれます。	1)身体障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。 2)知的障害や発達障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。 3)精神障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。 4)障害を捉えるモデルを説明でき、その受容過程について考察できる。 5)精神疾患や発達の障害に対する心理社会的な援助方略について説明できる。	◎	△	○	◎					◎
教育・学校心理学	秋田恭子	学校臨床心理学とは何かおよび学校心理学における問題について理解を深める。小学校、中学校、高校のスクールカウンセラーの役割、教育相談室や適応指導室における心理的役割や学生相談における相談員の役割について学ぶ。	学校臨床心理学とは何かを説明できる。教育領域において、心理学的視点からどうとらえるかを説明でき、その視点を持った臨床心理士や公認心理師などがどのような役割を担えるかについて説明できる。	◎				◎			◎	○
心理調査概論	中川裕美	本講義は認定心理士(心理調査)に必要な科目である。心理調査を実施するための基本的な事項や能力を獲得し、心理学的方法論を社会で活用できるようになる水準を目指していく。まず心理調査の基本的な考えと歴史をおさえ、心理統計の基礎的な知識を習得する。仮説検証法や有意水準などさらに調査、実験、観察、面接、尺度構成、検査の方法論を実践的に学ぶ。さらに心理調査を実践するうえでの研究倫理であるインフォームドコンセントや個人情報保護の感覚を養っていく。	調査(実験)対象について、自分の力で、問題点を探り、目的を設定し、調査あるいは実験を計画し、実施し、得られた結果を解析し、考察できるようにすること。心理調査を実施するうえでの研究倫理を身に着けること。		◎	◎					○	

リエゾンゼミⅣ	佐藤俊人	原則として3年生の演習からの継続である。心理に関する演習である。心理・発達に関して文献研究、実証的研究を行い、その成果をホームページとして発表することが活動の中心である。研究の基本を再確認するとともに、プレゼンテーションができることをめざす。	心理学的な現象について自分のことばで説明できることに加え、各自の研究課題および仮説を考え、それを確かめるためにデータ収集～分析～論文作成～プレゼンテーションできる	◎	◎		◎			◎	
リエゾンゼミⅡ	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、既にある心理実験を追試し、その結果のプレゼンテーションをすることを通して、実験心理学的な研究手法について理解し、実施できる能力を習得してもらいます。	①課題として扱う事項に対して理解し、研究を実現するための知識と技術を身に付ける ②研究を実施するために必要な手続きについて理解する ③取得したデータを解析し、論理的に考察した結果についてまとめ、発表できる	○	◎	○				○	△
リエゾンゼミⅢ	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、自身が興味を持って追試したい心理実験を文献検索により選定し、追試した結果をプレゼンテーションをすることを通して、実験心理学的な研究を実現し、遂行できる能力を習得してもらいます。	①専門領域の文献を読み、理解したことを資料にまとめ、発表できる ②課題として扱う事項に対して論理的に疑問を持ち、自ら調査・研究することができる ③取得したデータについて適切な解析を選択し、論理的に考察した結果についてまとめ、発表できる	○	◎	◎			○	○	△
リエゾンゼミⅣ	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、自信が興味のある心理現象について研究計画をもとに検証を行い、その結果のプレゼンテーションをすることを通して、実験心理学的な研究を立案し、遂行できる能力を習得してもらいます。	①自身の興味をもとに、心理学的な現象について検証すべき疑問を提案できる ②課題として扱う事項に対してどのように調査・研究すべきか提案できる ③取得したデータに対して多角的な解析を行い、それらの結果を統合した考察を行うことができる ④研究の内容と結果について説得力のある発表を行い、質問や指摘について適切に対応できる	○	◎	◎	○	◎	○	○	△
リエゾンゼミⅡ	柴田理瑛	和文・英文の文献を読み解く。いずれも受講生の興味に応じて選んだものを読んでもらう。読んだ内容をパワーポイント等にまとめ、発表する。読解から発表までを3回かけて行い、計4回行う。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③文献だけでなく、日常生活においても疑問や興味を持ち、それを言葉にすることができる。	◎	◎	△	◎			○	
リエゾンゼミⅢ	柴田理瑛	英語の文献を読み解き、追試実験・調査を行う。いずれも受講生の興味に応じてすすめる。読んだ内容や追試の結果はパワーポイント等にまとめ、発表する。前期は読解から発表までを3回かけて行い、計4回行うこととする。後期は追試実験・調査は原則1回とし、得られた結果を分析し、発表する。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③実験を計画し、仮説を検証することができる。	◎	◎	△	◎			○	
リエゾンゼミⅣ	柴田理瑛	前期は実験・調査の計画を行う。いずれも受講生の興味に応じてすすめる。後期は実験・調査の結果を分析し、レポートにまとめる作業を行い、発表を行う。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③研究を計画し、仮説を検証することができる。	◎	◎	△	◎			○	
リエゾンゼミⅡ	武村尊生	近年、チーム医療が様々な現場で実践され、心理職もチームメンバーの一員と位置づけられることが多くなってきました。心理職が各チームで果たすべき役割を学び、他職種連携と協働の観点から、心理職として求められる姿勢、態度について議論し、理解を深めます。講義等で学んだ内容を、実践力として発揮できるようになる事をめざします。	1. チーム医療の概要を述べることができる。 2. 自分がまとめた内容を適切にまとめ、他者にわかりやすく伝えることができる。 3. 他者に情報を伝える際の、情報のバランスを配慮できるようになる。 4. 心理職以外の関連領域への視野を広げ、他の職種の職務内容の専門性に配慮し、討論できる。	○	◎	○	◎	○	◎	○	
リエゾンゼミⅢ	武村尊生	総合病院精神科におけるコンサルテーション・リエゾンの視点から、チーム医療における心理職の果たすべき役割について学びます。その過程の中で、心理職として必要な問題解決能力、コミュニケーション能力、組織間調整力、社会貢献能力をどのように獲得していくかについて議論します。学んだ知識を、将来の実践で発揮できることを目指します。	1. チーム医療の特性を理解し、心理専門職としての役割を他職種に説明することができる。 2. 身体疾患が及ぼす心理的問題を理解し、解決に向けて議論することができる。 3. 他職種・他機関と協調しながら、問題解決を行う姿勢・態度を示すことができる。 4. 各テーマを学術的観点から考察、説明、記述することができる。	○	◎	○	○	○	◎	○	
リエゾンゼミⅣ	武村尊生	事例研究を通じ、様々な分野で実践されている心理学的支援について学ぶ。その中で、各分野での心理専門職の役割について理解を深める。各自の関心あるテーマに基づき、調査・研究を行う。研究成果は適宜発表を行い、進捗等について他の演習参加者と検討を行う。建設的なディスカッションを通じ、研究をはじめとした専門的共同作業に必要な姿勢を学ぶ。	1. 臨床心理学的な研究方法を用いて、自ら研究テーマを設定できる。 2. 研究から得た結果を、複数の視点から多角的に考察することができる。 3. 自らの研究の効用と限界が説明できる。 4. 広い分野で用いられている心理学的支援法について、非専門家にも平易な言葉を用いて説明できる。 5. 多職種連携を実践するため、その場に適切な姿勢・態度を示すことができる。	○	◎	◎	○	○	◎	○	
リエゾンゼミⅡ	内藤裕子	養護教諭の職務の実際、とくに保健管理の健康診断、学校環境衛生、疾病の予防について、法的根拠に基づいた具体的方法を学びます。	健康診断、学校環境衛生の法的根拠に基づいた具体的方法について調べ、レジュメを作成し、さらにパワーポイントを用いてプレゼンテーションすることができる。また、自ら技術を習得し、他者にデモンストレーションすることができる。		◎					○	
リエゾンゼミⅢ	内藤裕子	保健室に入室する子どもへの対応についてロールプレイとディスカッションを重ね、子どもの心と体を見る目、判断力、処置技術、コミュニケーション能力、学校組織内の動き方を身に付け、一連の流れの中で「養護」の意味を考えます。	提示された仮想場面において、適切なアセスメントと場面对応(処置)のロールプレイングをすることができる。	◎		○	◎			○	○
リエゾンゼミⅣ	内藤裕子	前期は、養護実習および教員採用試験に役立つ講義・演習において、個人およびグループで課題に取り組み学び合います。後期は個人またはグループの研究テーマについて、立案した研究計画に沿って研究を進め、その成果をゼミ論集にまとめます。ゼミ論集作成は役割分担において学生が主体的・計画的に活動します。	①教員採用試験対策を通じ、自学ノートに文章化することができる。 ②講義・演習を通じ、実習計画や学習指導案、研究計画に反映する(文章化する)ことができる。 ③自ら選んだ研究テーマについて計画的に取り組み、結果についてプレゼンテーションおよび論文化することができる。	○	○	◎	○			◎	○

リエゾンゼミⅡ	中村修	文献講読とプレゼンテーションを繰り返し行っていく。まず読解について、前期は「心理学を変えた40の研究」という書籍で紹介されている心理学の古典的・代表的な研究のいくつかについて、後期は心理学系学会誌に掲載された論文を読解する。いずれも受講生の興味に応じて選んだものを読んでもらう。プレゼンテーションでは、読解した内容を他の受講生に的確に伝えて共通できるように、資料の作成および発表をくり返し行ってもらおう。グループディスカッションを通じて理解の深化、発表技法の共有を図るので、能動的に参加してほしい。	理解を進めるための補足資料を自ら探す習慣及び探す方法を身につける 文献を読解し理解したことをレジュメ形式等にまとめなおして他者に伝えることができる 他者の発表に対し、その論旨にのっとった上での発問ができる	◎	◎	○	◎	◎	○	△
リエゾンゼミⅢ	中村修	前期は健康心理学領域で注目されているポジティブ心理学に関する文献講読を行う。ポジティブ心理学とは何かに迫ることを目的とし、特に注目されている要因を理解することを目指す。グループディスカッションにて理解の深化、共通化を図るので能動的に参加してほしい。後期は前期で理解した要因をもとにデータをとって研究を行う。同時に、心理学実験・研究法で学んだ心理学研究の「礼儀作法」を実践してもらおうとする。ポジティブという用語で連想することは様々だろうが、単に「前向き」であればいいのかどうか、一緒に考えてほしい。	文献で述べられている内容を正しく理解した上で、論理的かつ批判的に自己の意見を述べる ことができる データ収集から分析までの一連の手順を主体的に行うことができる 心理学での論文記述形式にならって自己の研究を記述することができる	◎	◎	◎	○	△	◎	○
リエゾンゼミⅣ	中村修	「福祉大で心理学を学んだ」集大成になるものをまとめてもらうことを目的とする。具体的には、発達心理学・健康心理学の領域から受講生が「各自で」設定したテーマに基づいて研究(調査研究、文献研究)を実施してもらう。前期はテーマ確定とテーマにあわせた研究法の確立、後期には研究を上げると同時に、明らかにしたことを効果的にプレゼンできるようにまとめてもらう。なお、テーマは個別であるが、研究を進める作業においてはグループ活動、グループディスカッションを行うので、他の受講生のテーマにも関心をもって積極的に参加してほしい。	自ら設定した問いに対して的確な研究計画を立てることができる。 上記の研究計画を基本的に独力ですすめることができる。 得られた知見を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技法を自ら選択・工夫できる。	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
リエゾンゼミⅡ	中村恵子	学校カウンセリングについて実践的に学ぶ 学校現場で起きている問題について理解し、実践的に解決方法を学ぶ 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力、社会貢献力を身につける	①発達段階ごとの学校適応を説明することができる。 ②不適応を引き起こす悪循環を構造的に説明できる ③悪循環の解除について説明できる	○	○	○	○	○	◎	◎
リエゾンゼミⅢ	中村恵子	学校カウンセリングについて実践的に学ぶ 学校現場で起きている問題について理解し、実践的に解決方法を学ぶ 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力、社会貢献力を身につける	①発達段階ごとの学校適応を説明することができる。 ②不適応を引き起こす悪循環を構造的に説明できる ③悪循環の解除について説明できる	○	○	◎	○	○	○	◎
リエゾンゼミⅣ	中村恵子	自分自身の関心や適性と社会や各種職域を結びつけ、その要請に対して福祉・心理・社会の多次元に渡る広い視点を持って対応できることを目指す 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力を身につける	①個性を理解し、自分なりのキャリアデザインを策定する ②自分自身と向き合い、キャリア形成をする ③キャリアデザインについて仲間と分かち合いながらアイデンティティを形成する	○		○		◎		
リエゾンゼミⅡ	半澤利一	犯罪心理学は何をどう捉え、犯罪や非行をどう説明し、処遇をどう考えてきたのかをテキストに沿って学ぶことを基本にしながら、関連した文献や重大事件を取り上げて読み込む。また、実務家をゲストスピーカーとして招くことにより、犯罪心理学や臨床心理学の知見が非行臨床の現場でどのように活用されるかを知り、理解の浸透を図る。	① 非行や犯罪という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。 ② 現象を分析して抽象的に再構成し、的確な言葉で表現できる。	◎		○	○			◎
リエゾンゼミⅢ	半澤利一	犯罪行為を社会的文脈で捉え、犯罪心理学は何をどう解析してきたかを、さまざまな文献を取り上げて読み込むことで知る。主に実務的な課題をテーマとして取り上げ、犯罪や非行行動の理解や処遇法及び家族臨床の方法論を学ぶ。理論を適用する工夫を学ぶため、担当者による課題の発表や討議、ロールプレイなどの方法を用いる。さらに実務家をゲストスピーカーとして招いて聴講することで、犯罪心理学や家族心理学、臨床心理学の知見が実際の現場でどのように活用されるかを知り、理解の浸透を図る。	① 犯罪や非行について行動化を伴った社会的不適応として捉え、形成要因を分析して対応や処遇の方策を策定できる。 ② 家庭内紛争の類型や発生の機序、構造を理解し、紛争の解決を見立てることができる。 ③ 課題を明確にして必要な情報を収集して分析し、課題処理に見合う形に編集して効果的に表現できる。	◎		○	○			◎
リエゾンゼミⅣ	半澤利一	犯罪行為を社会的文脈で捉え、犯罪心理学は何をどう解析し、対処してきたかを、さまざまな文献を取り上げて読み込む。前期は主に犯罪行動を類型別に学び、後期は主に家庭内紛争についての理解を踏まえた支援法、介入法について学ぶ。適宜実務家をゲストスピーカーとして招いて聴講することで、犯罪心理学や関係諸科学の知見が臨床の現場でどのように活用されるかを理解し、応用力を高める。また、卒業後の社会人生活を見据え、実用的なプレゼンテーションやマネジメント、職場適応の基本を身につける。	① 犯罪や非行について行動化を伴った社会的不適応として捉え、形成要因を分析して対応や処遇の方策を策定できる。 ② 家庭内紛争の類型や発生の機序や構造を理解し、紛争の解決を見立てることができる。 ③ 課題を明確にして必要な情報を収集して分析し、課題処理に見合う形に編集して効果的に表現できる。	◎		○	○			◎
リエゾンゼミⅡ	三谷聖也	前期はカウンセリングについての基本姿勢と主要理論についての講義を中心に行う。後期は児童虐待、精神疾患、発達障害のテーマを取りあげ理解を深める。これらの前期後期の取り組みを通して、関心のある心理学の領域や関心のある心理支援の領域を見出すことができるとともに、自身の研究テーマを見つけられるようになる。	カウンセリングの主要理論を説明できる。近年社会的関心が高まっている児童虐待、精神疾患、発達障害のテーマを取りあげ理解を深める。これらのテーマについて主体的に調べることで、今後取り組むべき研究テーマを見つめることができる。					◎		◎
リエゾンゼミⅢ	三谷聖也	前期は家族の定義を学問的にとらえなおすことからはじめ、家族ライフサイクルの各段階ごとに家族の課題や危機についての理解を深める。また支援者としてかかわるうえで標準的な家族だけでなく家族の多様性についての関心も広げていく。後期は家族のアセスメント、家族療法の基本知識を身につけるとともに、ブリーフセラピーの支援法について学ぶ。これらの取り組みを通して、家族心理学と自身の研究テーマとの接点を見出すとともに、家族療法やブリーフセラピーの支援法を活かせる応用領域についても探求していく。	家族の定義を理解できる。家族ライフサイクルの各段階の課題や危機を説明できる。多様な家族についての関心を広げる。家族をアセスメントとする方法を習得する。家族療法やブリーフセラピーの基本となる支援法を習得する。					◎		◎

	心理演習	菊池陽子、清水めぐみ	具体的な場面を想定したロールプレイングや事例検討を通じて、公認心理師の4業務について体験する。ここでは、知識を知的に理解するだけでなく「心理実習」において各分野の施設で利用者や関係者とふれ合うための基本的な技能を身につける体験学習を行い、各分野の施設における実践を見学する際の意欲や関心を深めるために必要な情動を含む学習である。	次の(ア)から(オ)の事項について、具体的な場面を想定した適切な役割演技(ロールプレイング)を行い、かつ、事例検討で取り上げ議論することができる。 (ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ)多職種連携及び地域支援 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	○	○	◎				○
	心理実習	大関信隆、清水めぐみ、三谷聖也	公認心理師の4つの業務を行う能力を養う為に学部において設定されている教育課程の中でも、心理実習は非常に重要な役割を担っている。心理実習を履修する学生は、この実習を通じて、学外の心理援助の現場に初めて触れることになる。授業には、実習に加えて、実習の事前・事後の指導やケースカンファレンスの参加、事例検討会なども含まれる。	1. 公認心理師としての職責を自覚する 2. 問題解決能力と生涯学習に向けた態度を身につける 3. 多職種連携・地域連携の意義を理解する 4. 心理状態の観察及び結果の分析をする 5. 心理に関する支援の意義について説明できる	○	○	○	◎	○	◎	◎
	人体の構造と機能および疾病	飯嶋亮子、内藤裕子、鎌田克信	心理職がチーム医療等の中で多職種と協働し心理的支援にあたるには、支援が必要とされる疾病や障害の成り立ち、その理解のための体のしくみ、精神面への影響、そして医療やケアの現状について基本的な知識を身につけておく必要がある。本講義ではオムニバスの講義形式により基本的な知識を学ぶが、各講義を通じ、対象は疾病や障害ではなく「人」であることを念頭に置き、心理職の役割とは何かを考えながら受講すること。緩和ケアチームの現職の公認心理師をゲストティーチャーとして招き講話をして頂く予定。	・疾病や障害の成り立ち、その理解に必要な身体構造や機能について説明できる。 ・心理的支援が必要な対象と、心理職としての役割を論じることができる。	○		◎		△		△
	関係行政論	清水めぐみ	公認心理師の活動と関わる法令等を始めとした社会制度について学ぶ。特に、具体的な心理学的支援場面を想定して、かかる心理学的支援において不可欠の基盤となる代表的な法律・制度を概観する。	1. 公認心理師の活動に関わる保健医療分野に関する制度について説明できる。 2. 公認心理師の活動に関わる福祉分野に関する制度について説明できる。 3. 公認心理師の活動に関わる教育分野に関する制度について説明できる。 4. 公認心理師の活動に関わる司法・犯罪分野に関する制度について説明できる。 5. 公認心理師の活動に関わる産業・労働分野に関する制度について説明できる。	◎		◎	○	○	○	○
専門発展科目B群	健康相談活動(理論及び方法)	内藤裕子	養護教諭の健康相談において必要となる基本的な理論について学びます。心と体の両面に視点を置いて「見立て」「支援」の方法および流れを学びます。また、この授業を通じ「養護教諭の行う健康相談の独自性とは何か」について考え、各自の答えを見つけます。	1. 養護教諭の健康相談において必要となる基本的な理論について説明できる。 2. 心と体の両面に視点を置いて「見立て」「支援」の方法および流れについて説明できる。 3. 養護教諭の行う健康相談の独自性について各自の考えを文章化できる。	◎		◎	◎	◎	○	◎
	健康相談	内藤裕子	保健室には心因性の様々な症状を訴える子どもが来室し、その中には養護教諭の健康相談の範囲を超えた支援を求められるケースもある。養護教諭の健康相談は他の職員や専門機関に比べて役割も担っているといえる。しかし「つなぐ」には、どのような理由でどこにつなごうとするのか、心身の状態と背景にある問題を見極める必要がある。そこで、本講義では心理学的見立てを中心に理解を深め、見立てを生かした関わり方およびつなぎ方の実際について事例とロールプレイを通して学んでいく。自傷や母子分離がテーマとなる架空事例を用いる。	1. 事例を提示された際に、情報を整理して見立てを行い、養護教諭としての対応や連携、配慮点について文章化することができる。 2. 自他を尊重した話し合いを通して積極的に問題解決やロールプレイに取り組むことができる。	◎	○	◎	○	○	○	○
	救急処置及び看護法	飯嶋亮子	学校生活場面で発生した様々な疾病や外傷に対し、観察から処置までの一連の対応について資料を基に学習します。疾病の特徴を踏まえた上で必要な観察項目を理解し、緊急性や医療機関受診の判断やその後の対応について、根拠や留意点を考えながら学習します。毎回事例を用いて様々な状況を想定した対応についても学習します。	1.救急場面における緊急性および受診の判断基準となる根拠について説明できる。 2.状況に適した処置方法・必要物品が選択でき、対応時の留意点について説明できる。 3.児童生徒の精神状態に配慮した対応・留意点について説明できる。 4.救急時における連携・協働の意義と方法について説明できる	◎		◎	◎	○	○	
	看護学臨床実習の事前事後指導	飯嶋亮子	看護学臨床実習は、医療現場の実際を見学・体験することによって、患者・家族の生活や心身の状態を理解するとともに、医療チームを構成する各専門職者の役割や機能等について学ぶ、貴重な体験学習となります。医療現場での予防・判断・対応・連携がどのように行われているのか学び、養護教諭としての役割・活動に繋げて考察できるように学習していきます。	1.健康障害をもつ人の精神的・身体的・社会的問題を理解することができる 2.疾病や心身の障害の実際を理解し、それらの健康問題に対する専門職者の役割・機能について理解することができる 3.実習施設の概要・特色を理解したうえで実習計画が立案出来る 4.実習に必要な基本的看護技術について、目的・方法を理解し実施できる 5.実習後レポートをまとめることで、実習の成果や自己課題、養護教諭としての在り方について考察出来る。 6.実習の学びの成果として実習報告書をまとめ、発表出来る 7.グループ活動を通して学びを共有し、自他尊重・連携・協働の意義を理解できる。	○		○	○	○	○	○
	看護学臨床実習	飯嶋亮子	看護学臨床実習は、医療現場の実際を見学・体験することによって、患者・家族の生活や心身の状態を理解するとともに、医療チームを構成する各専門職者の役割や機能等について学ぶ、貴重な体験学習となります。医療現場での予防・判断・対応・連携がどのように行われているのか学び、養護教諭としての役割・活動に繋げて考察できるように指導していきます。	①医療機関の概要が説明できる ②健康を害した人々の心身の状態及び機能的変化を言語表現できる。 ③臨床現場における専門職の役割・機能が説明できる。 ④臨床現場で実施されている安全管理・感染症対策を守って行動できる。 ⑤実習生として適切な態度・行動がとれる ⑥実習を通して養護教諭としての役割・活動のあり方を記録にまとめることができる。	○	○	○	○	○	○	○

